火能

No 18
共産主義者同盟関西地方委

15神戸領事館。17、18佐世保集会に最終的団めを!

[illegible]は18日と最終的に確定された。
70年安保—沖縄を軸とする日本帝国主義の、軍事・外交路線は、日韓以降の東南アジア進出・太平洋経済圏構想の本格外交から、政治、軍事へゲモニーの確立へと移行し、急速にブルジョワジーの専制攻撃として展開されていることはすでに確認された。

「日本の安全平和（核安保）」から「極東の安全平和へ」'72沖縄復帰—対東南アジア軍事拠点としての沖縄の日帝の再軍備への決意、自主防衛の強調と国防教育、三次防、四次防の攻勢は転換され、エンプラ寄港はその下での一環として位置された。かかる階級情勢の下で、社民をして「安保条約は当面上る（若干）」「沖縄・安保・ベトナム」を軸とした中期政策構想（社党理論委々々4）共産党の場合は、民社のエンプラ寄港反対、公明の「70年安保再論—沖縄核基地返還反対、社—共、公明の統一戦線維持—完全中立論—日米安保反対」等をゆり動かしている。

しかしながら、羽田以降の、そして[illegible]以降に登場した問題は、かかる階級情勢の攻撃の中で、行政、権力体制の反動化の中で、かかる中間諸階級の動揺を、動向をも規定するのが、革命的左派の独自の行動—実力闘争であり、敵階級と革命的左派との対抗関係において再び決定されるという、最もオーソドックスな形で一般的に固定化し、一元拡大するということである。かかる意味において、佐世保闘争大衆的決起—神戸領事館への決起の質、党性こそ○○の意味は重大である。

すでに東京・関西、佐世保での全ての体制は基本的に確立された。九州・四国でもブルジョワの大学当局と、民青の妨害目的的にかかわらず、闘争は進行し、扱える段階に入った。神戸(15)、佐世保決起(16)への動員の最終的な点としての拡大(12日)・大阪こそ闘争を中心)へ全力を挙げよう。

〈東京〉

17日、
国際反戦 国際実行委主催 5万人集会
17日 日比谷 6時
18日 全学連、東京反戦、首相官邸デモ
21日 横須賀集会

〈佐世保〉

16日、社学同決起集会（予定）一〇〇〇名
（社学同第一次部隊到着）
17日 全国反戦、全学連決起集会
四〇〇〇名・国際反戦結集
5時半 佐世保 松浦公園
18 全国実行委（社民） 中央実行委（共産）5万人集会
—連続闘争
21 再度 5万人集会

〈関西〉

15日、神戸領事館闘争 労学二〇〇〇名
学生五〇〇名 佐世保へ出発
16日 大阪反戦 地区反戦、佐世保へ出発
（一〇〇名）
反戦、[illegible]領事館闘争[illegible]
18日、実行委（総評系）、大阪反戦 三万人集会
扇町公園 6時
21日 同右

・なお、九州における15の責任者、八木沢、九州における現地本部は九大生協予定。12日午前中に最終確定

○佐世保での宿泊体制は 佐世保地区労書記 渡辺氏が世話。一泊二食 一〇〇〇円。15日までに申込み、へ反戦で一括郵送予定

○21日東京闘争に備えた体制を、関西においてもとろう。